

渡邊萬次郎賞

渡邊萬次郎賞第30回受賞者

蟹澤 聰史 会員



蟹澤聰史会員は1955年に長野県立伊那北高等学校を卒業し、東北大学理学部地学第二学科に入学、1959年卒業後同大学院理学研究科修士課程に進学、1964年に博士課程を修了と同時に理学博士の学位を取得された。同年日本学術振興会奨励研究生となり、7月から東北大学教養部助手に採用となった。1974年4月、東北大学教養部助教授に昇任、1980年4月には教授に昇任した。

1993年から理学部・理学研究科教授を務め、2000年に停年退官した。その後は山形大学理学部教授を務め、2002年に停年退官後も数年間にわたり東北大学、山形大学で講師を務めた。

蟹澤会員は、学生時代の長野県高遠地方の領家帯変成岩・深成岩についての岩鋳論文、南部北上山地の変成岩に関する紀要論文(学位論文)を始めとして、阿武隈山地での十字石の発見やざくろ石角閃岩の記載等、東北地方の変成岩や火成岩に関する多数の研究において、143編の論文と11冊の著書を公表されてきた。

(1) 北上山地の基盤岩類ならびに阿武隈山地の変成岩に関する研究では、4億5千万年前の正法寺閃緑岩より、母体変成岩が古いことを提案し、近年の研究においてもその正当性が明らかにされつつあるなど、日本列島の基盤岩類や地質の解明に多大な貢献をしてきた。

(2) 北上山地の古生代以降の火成活動に関する研究においては、正法寺閃緑岩や早池峰構造帯の中の火成岩類も既に島弧の性質を持っていることの発見は、ゴンドワナの生成・発展に関する先駆的な研究である。

(3) 北上山地の白亜紀火成活動に関する研究や(4) 日本列島の中生代～新生代花崗岩類の造岩鋳物に関する研究では、白亜紀花崗岩、東北地方の火成活動史の総括などで顕著な業績を挙げた。白亜紀火山岩の K_2O に富むソレアイトとカルクアルカリ火山岩と花崗岩類との関係解明、花崗岩類と火山岩類が火山-深成複合岩体を形成、花崗岩における角閃石や黒雲母のFe/Mg比が磁鉄鋳系列とチタン鉄鋳系列によって異なることの発見、領家帯や北上山地、阿武隈山地の白亜紀花崗岩類の造岩鋳物、長石の秩序度などの研究等、多くの岩石学的貢献をされている。

(5) 火成岩および変成岩中のフッ素の挙動に関する研究において、北上山地と領家帯の花崗岩類ではフッ素の濃集方が異なっていることや、ラバキピ花崗岩などAタイプの花崗岩類には日本の花崗岩類に比べてフッ素が異常に濃集していること等を解明した。変成度が上昇するにつれて変成岩中の含水鋳物のFがOHを置換する程度が大きくなることや、日本の第四紀のソレアイト、高アルミナ玄武岩、アルカリ岩の順序でフッ素やバリウムが多くなることを見いだしている。一方で、カルクアルカリ岩については、明瞭な関係が認められず、その起源の多様性を示すものと解釈した。北上山地のアダカイト質花崗岩についての論文、分帯区分、累帯深成岩体の総括研究、北上山地の構造発達史に関する論文、中国やエジプト等の花崗岩に関する論文など、多くが国際的に広く引用され、岩石研究発展に向け大きく貢献されている。

(6) 東北地方のテフラに関する研究では、仙台付近の火山灰層の研究により安達火山を発見したことや旧石器時代遺跡の年代決定に貢献したことも特筆される。

上記の研究は高く評価されており、国際地質対比計画IGCP-315「ラバキピ花崗岩と関連岩石」の日本代表、万国地質学会議IGC京都大会(1992)の「花崗岩の時間的空間的比較研究」コンピーナー、IGC北京大会(1996)の「大陸プレート内と受動的大陸縁のマグマ活動」コンピーナーなども務められたことはその一例である。

一方、蟹澤会員は「現代の地球科学—基礎編」などの教科書や「文学を旅する地質学」、「石と人間の歴史」、「おくのほそ道」を科学する」などの普及書や出版し、地学の教育と普及に貢献してきた。理系・文系の幅広い分野にわたる深い教養と多年の教育経験に裏打ちされたこれらの優れた普及書は、今後も多くの読者に

読み継がれて行くに違いない。

学生指導・教育面においては、東北大学在職中に多くの学生を指導し、その中には大学の教員や研究所の研究者として現在活躍中の者や本学会の発展に貢献してきた者も多い。研究面においては、学内外を問わず、多くの共同研究者に恵まれていたことも大きな要因となった。

蟹澤会員は、学会や社会においては、日本岩石鋳物鋳床学会(現鋳物科学会)会長、日本学術会議の地質学研究連絡委員会委員、金属鋳業事業団の調査委員、国際協力事業団の派遣専門家、大学入試センター委員、宮城県自然環境保全審議会委員を務めるなど各方面で活躍し、東北大学でも評議員を2期務めるなど要職を歴任した。そして2012年には日本地質学会の名誉会員に推挙された。以上のような岩石学・鋳物学・地質学・考古学分野における長年の貢献と優れた研究・教育業績ならびに普及活動への顕著な貢献に鑑み、蟹澤聰史名誉会員を日本鋳物科学会渡邊萬次郎賞に推薦する。

蟹澤聰史会員の略歴

1936年 11月30日長野県生まれ

1959年 3月 東北大学理学部地学科地学第2卒業

1964年 3月 東北大学大学院理学研究科地学専攻博士課程修了(理学博士)

1964年 4月 日本学術振興会奨励研究員(1964年6月まで)

1964年 7月 東北大学教養部助手

1974年 4月 東北大学教養部助教授

1980年 4月 東北大学教養部教授

1993年 4月 東北大学理学部・理学研究科教授

2000年 3月 東北大学停年退官

2000年 4月 山形大学教授(1999年4月より 山形大学併任教授)

2002年 3月 山形大学停年退官

2002年～2006年 東北大学・山形大学講師

非常勤講師歴

香川大学教育学部、広島大学大学院理学研究科、北海道大学理学部、東北工業大学、新潟大学理学部、信州大学理学部等

学会・社会活動に関する履歴

1974～1976年 文部省学術審議専門委員

1976年 国立大学協会科目別研究専門委員会委員

1982～1985年 日本岩石鋳物鋳床学会誌編集委員長

1986～1991年 日本岩石鋳物鋳床学会庶務常務委員

1986年 東北地方土木地質図作成委員会委員

(国土開発技術センター)

1987～1989年 文部省学術審議専門委員

1988年 金属鋳業事業団レアメタル賦存状況調査委員会

委員および三陸中北部レアメタル賦存状況調査

専門委員会委員長

1988～1997年 日本学術会議第14、15、16期地質学研究連絡

委員会委員

1992～1995年 金属鋳業事業団レアメタル賦存状況調査委員会

委員および北上地域レアメタル賦存状況調査専門

委員会委員長

1994年 1994年地球惑星科学関連合同大会企画委員長

1995年 国際協力事業団「中国鋳物資源探査研究センター

プロジェクト」平成7年度短期専門家

1995～1997年 金属鋳業事業団鋳物資源調査アドバイザー

1997～2010年 宮城県自然環境保全審議会委員

1998～2000年 日本岩石鋳物鋳床学会会長

2012年 日本地質学会名誉会員

主な国際会議等関連委員

1977年 Japan National Committee of Circum Pacific

Plutonism Project委員

1991～1992年 第29回万国地質学会議(1992年：京都)における

"Comparative study of granites in space and time"

コンピーナー

1993～1997年 IGCP(国際地質対比計画)国内委員会委員並びに

IGCP-315 "Rapakivi granite and related rocks"

日本代表

1995～1996年 第30回万国地質学会議(1996年：北京)における

"Continental intraplate and passive-margin magma-tism"コンピーナー